

立教大学スポーツウエルネス学部 ・ 沼澤 秀雄 「スポーツウエルネス学部学部長」

# 体育、福祉そしてスポーツウエルネスへ

## ―立教大学スポーツウエルネス学部の新設―

### 1 戦後の大学における体育教育

学校教育法が施行された新制大学においては、当時の若者の健康状態が良くなかったこともあり、大学教育の中に健康教育として、保健体育講義2単位と体育実技2単位は必修科目で展開されていた。そして1991年の大学設置基準大綱化によって、保健体育科目4単位については大学の判断に任せられることとなり、選択科目に移行していった。

立教大学においても1995年に一般教育部を改組して、保健体育科目を含む一般教養科目を全学共通カリキュラム運営センターで運営していくことになった。この頃

から日本の大学における体育系学部の使命が、全国の保健体育教員養成から、スポーツや運動を科学する人材養成へと変わっていったと考えられる。また、「体育実技」という科目が全学共通カリキュラムの中で「スポーツ実習」と名称を変更した。教員についても体育教員からスポーツ教員という呼び方をされるようになった。

### 2 コミュニティ福祉学部でのスポーツ教員の関わり

立教大学のいわゆる一般体育を担当していた教員は、大綱化による改組によって1998年につくられたコミュニティ福祉学部に所属することとなった。その理由としては健康、保健、障害者スポーツなど、研究分野の親和性が比

較的高いと考えられたためである。

一方でスポーツ教員は、以前からハルバート・ダンが提唱する「よりよく生きる」というウエルネスの考え方に注目していた。そのため、学内にウエルネス研究所を設立して、立教学院一貫連携教育を視野に入れながら、小学校から高校までの体育教員に参画していただき、研究活動や講演会などを実施してきた。そのこともあって、コミュニティ福祉学部開設当初のスポーツ教員は、ウエルネス関連科目として「ウエルネス福祉論」「障害者スポーツ論」「福祉とレクリエーション」などの科目を担当してきたが、2008年に学部内にスポーツウエルネス学科を立ち上げ、より専門性の高い取り組みを行った。この学科の目的は、スポーツ科学やウエルネス科学を基盤として、しょうがいの有無や老若男女にかかわらず、全ての人が運動やスポーツを通して個々人のウエルネス向上を図り、より良く生きる福祉社会の実現であった。

こうしてコミュニティ福祉学部は、福祉学科、コミュニティ政策学科にスポーツウエルネス学科が加わり、3学科の有機的統合による新しい福祉の創造を目指してカリキュラムを展開した。

### 3

## スポーツウエルネス学部開設と 教育理念および目的

スポーツウエルネス学部は、2023年4月に立教大学で11番目の学部として、また新座キャンパスでは4番目の学部として開設された「図1」「写真1」。

学部の教育理念としては、立教大学の「普遍的なる真理を探究し、私たちの世界、社会、隣人のために」と、前身であるコミュニティ福祉学部の「いのちの尊厳のために」を踏まえて、「すべての人の生きる喜びのために」と



[図1] スポーツウエルネス学部新設告知(2023 学部案内表紙)



[写真1]立教大学 新座キャンパス

した「図2」。

また、学部における教育研究上の目的は、スポーツに興味・関心を有する優秀な人材を集め、豊かな人間性を基盤とし、全ての人のウエルネス向上とウエルネス社会の構築に寄与する、高度なスポーツウエルネス学の知見と力能を有する人材を育成することであり、育てたい人間像を次の4点とした。

- (1) スポーツウエルネスに関する科学的視点や、基礎知識・基礎理論を、総合的・学際的に理解し、社会に応用できる人材
  - (2) 人間の適応可能性を高め、高度なアスリートサポートに寄与するための、スポーツウエルネス学の深い理解に基づいた指導ができる人材
  - (3) すべての人が運動・スポーツを通して個々人のウエルネスを向上させ生活を豊かにするための科学的知見と力能を有する人材
  - (4) 人間と自然の調和をはかり、幅広い教養と国際的な感覚を身に付け、指導ができる人材
- 加えて、右記の人材を輩出するために3つの領域モデルを設定した。それは、ハイパフォーマンスの達成に資する高

## スポーツウエルネス学部 理念

### “すべての人の生きる喜びのために”

立教大学 理念

コミュニティ福祉学部 理念

スポーツウエルネス学科 理念

RIKKYO UNIVERSITY

“普遍的なる真理を探究し、  
私たちの世界、社会、隣人のために”

“いのちの尊厳のために (Vita dignitati)”

analysis servant leadership  
biomechanics respect good loser  
global Sport sportsperson ship  
training media medicine Wellness Olympic Paralympic  
spiritual resilience nutrition QOL gender  
nature guts GRIT tenacity sleep Vita dignitati  
initiative

PRO DEO  
ET  
PATRIA  
神と国のために

[図2] スポーツウエルネス学部 理念

度なスポーツ科学的知見を有する人材の育成を目的とした「アスリートパフォーマンス領域」、ウエルネスに関する高度な専門性を有し、全ての人がその人らしくスポーツを享受できるウエルネス社会に貢献できる人材の育成を目的とした「ウエルネススポーツ領域」、環境問題やサステイナブル社会に関する高度な専門性を有し、スポーツの教育的価値を高め、スポーツによる人間教育を実践できる人材の育成を目的とした「環境・スポーツ教育領域」である。

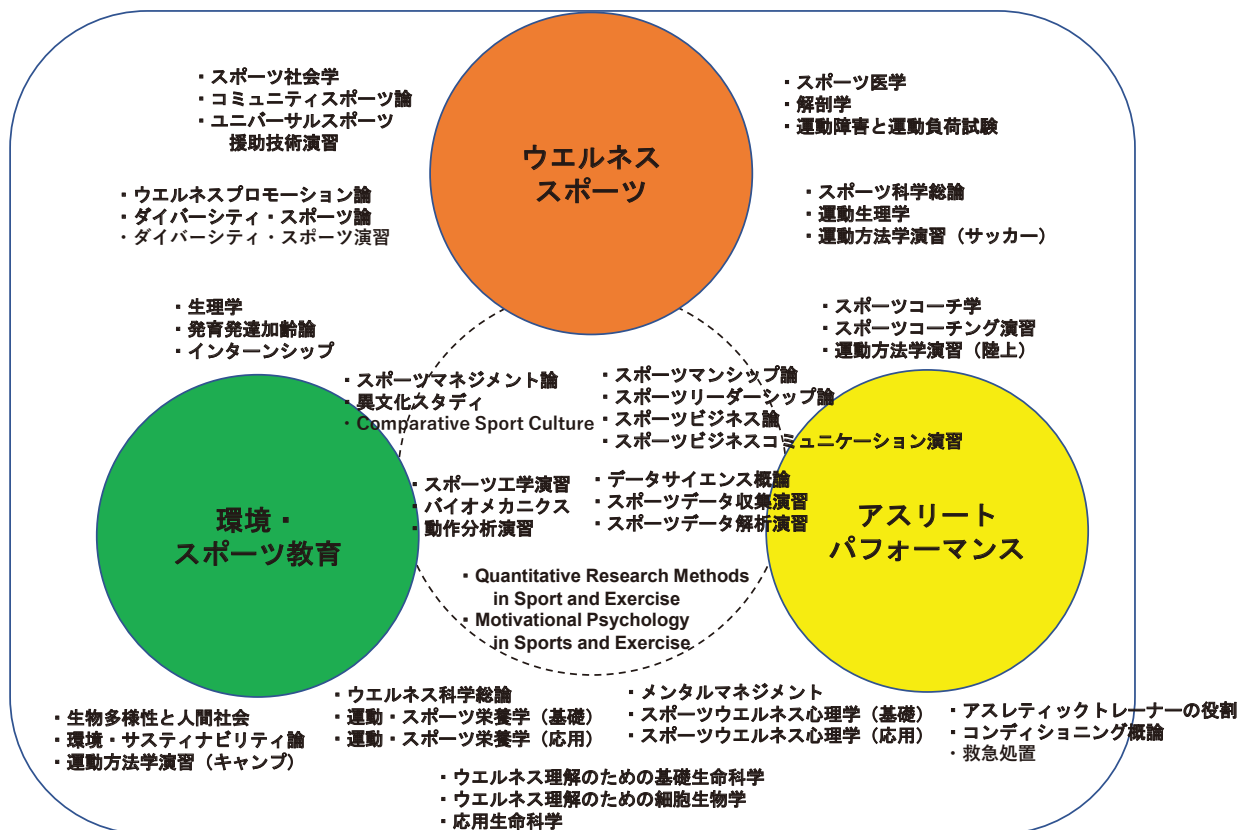
#### 4 スポーツウエルネス学部の特徴と今後の展望について

身体的諸能力の洗練によって人間の可能性を開花させるスポーツの特徴は、人種、性別、年齢、言語、しようがいの有無等、人間を区別してきた枠組みを、身体的コミュニケーションと共感によってつなげる可能性を持つことである。多様性(ダイバーシティ)に満ちた共生社会の構築に生かしながら、地域社会、ひいては国際社会における平和と友好に寄与することを期待している。また、地球規模で自然破壊が進行する中において、人と自然との調和に基づ

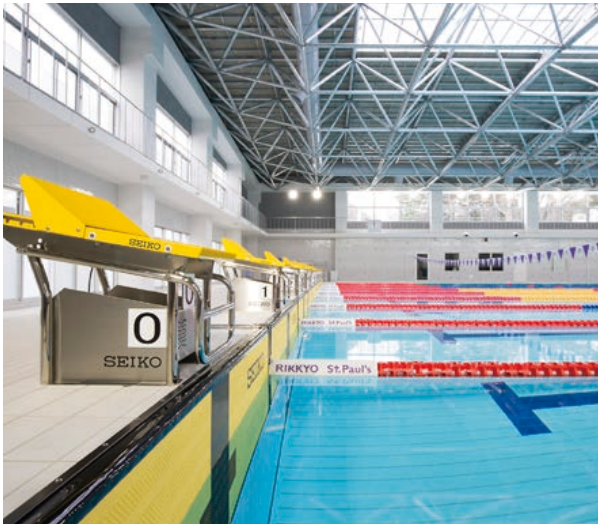
くウエルネス社会の実現に向けて、自然環境の在り方、中でもエコロジカルな視点、サステイナブルな視点からウエルネス文化の再構築を目指したい。

学部のカリキュラムは、「スポーツマンシップ論」「スポーツリーダーシップ論」を必修科目として、「アスリートパフォーマンス」「ウエルネススポーツ」「環境・スポーツ教育」という3つの領域に応じた科目を配置している「図3」。学問分野としては、スポーツ科学、ウエルネス科学、トレーニング科学、トレーナー科学、医学、心理学、栄養学、生理学、環境教育学、社会学、工学、生物学、経営学、経済学、統計学、比較文化学、ジェンダー学など多岐にわたる。

以上のように、ウエルネスの発想とスポーツ・健康科学の研究領域を融合させたスポーツウエルネス学は、従来のスポーツ科学や健康科学の範疇<sup>はんちゆう</sup>を超えた新たな学問領域と捉えることができるかと考えている。AI、さらには生成型AIが進化していく現代社会において、知識の集積や身体能力の獲得だけではなく、「すべての人の生きる喜びのために」を実現するための判断力や洞察力を養い、「ウエルネス社会に貢献できる人材」「日本のスポーツをリードしていく人材」を育てていきたい。



〔図3〕スポーツウエルネス学部のカリキュラム



セントポールズ・アクアティックセンター



セントポールズ・フィールド



体育館アリーナ



体育館アリーナ



トレーニングルーム



多目的グラウンド

[写真2]スポーツウエルネス学部 関係施設